

ふるさと探訪

第50回 土田之木（どだのき）のエノキ



昭和40年12月に県指定の天然記念物となった、根回りが14・15呎にも及ぶエノキの古木で、樹齢は400年を超えるといわれています。

根元から4呎ほどのところまで空洞化しており、すでに

主幹は枯れ、現在は第一枝が幹となっています。樹勢にはやや衰えが見え、西側から支柱を施しています。

かつては、樹高が25呎、枝張りは東西に20呎、南北に16呎の広がりを見せていました。が、老幹を保護するための枝打ちにより、現在では少しスマートな姿となっています。

地元では、周桑平野一の巨木とされ、桜三里の峠を越えて来る人々の目印であったと伝えられています。

遠くからでも、その存在感をうかがい知ることはできませんが、県道丹原小松線のJR予讃線正徳寺踏切から150



呎ほど西進すれば、進行方向右手に、荘厳な雰囲気をもたえた大エノキを確認することができます。

悠久の時の流れを感じてみてはいかがですか。

■所在地 玉之江

■駐車場 なし

